

イエスの名によって 御言葉によって

わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう。こうして、父は子によって栄光をお受けになる。わたしの名によって何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう。ヨハネ 14:13~14

あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。ヨハネ 15:7

あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。ヨハネ 15:16

はっきり言うておく。あなたがたがわたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。今までは、あなたがたはわたしの名によっては何も願わなかった。願いなさい。そうすれば与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。ヨハネ 16:23~24

イエス様が逮捕され十字架につけられる前日、弟子たちに語られた「ヨハネ福音書 14、15、16章」を読んで、「わたしの名によって願いなさい。そうすれば与えられる」と、こんなにもくり返し言われていたのだと改めて驚いている。

信仰の友が電話で、この御言葉がいかに真実であるかを話してくださった。それはそうだと心から思った。その友のように静まって、真実な、深い祈りができたら、これらの御言葉の確かさを味わい知ることできるだろう。でも私はそのように祈ってはいない。「私は動き回る方が多くて、あまり祈りの時間もとらないし、もっと深い祈りができるようになりたい」と言うと「そんなことではなく、キリストの名によって祈るということです」と言われた。そうなのだ、たとえ数分の祈りであれ、一瞬の祈りであれ、キリストの名によって、信じて祈ることなのだ。祈りとは信仰なのだ。キリストと共にあるなら、願いはかなえられ、喜びで満たされる。信じる者に用意された御国が見えるようだ。

イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。ヨハネ 13:7

そうなのか、今この世で生かされているのは、今は分からないことが、後で、分かるようになるためなのか。なるほど、こうして今日まで生かされてきたのは、その時には分からなかったことが、今は分かるようになった、そのためだったのか。

キリスト教の中心は何と言っても、キリストの十字架による人類の罪の赦しと救いである。若き日からずっとずっと聞き続けて、その度にそれなりに感動して、いつしか、そうでなければ生きられない、そこにしか救われる道はないと本気で思うようになって。ここ数日、周りの出来事から、またまたどうしようもない人の罪の凄さに、なるほど絶望とは人の罪のことなのだと分らされた。すると、闇が深ければ深いほど光は強く輝くように、キリストの十字架が全世界を、全宇宙を照らしているのが分かって「主よ」と思わず叫んでいる。

「汝いまは知らず、後に悟るべし」と、そのためにこの人生が与えられ、今日も生かされているのだと思えば、私たちの日々は、死にではなく命に向かっているのだと分かってくる。何を今は知らないのか、そう、キリストというお方を。何を後に悟るのか、そう、キリストというお方を。

永遠の命とは、唯。一のみことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。ヨハネ 17:3

今朝は携帯メールの着信音で目が覚めた。飛び起きて今朝のメール集会の箇所を読む。

1コリントの信徒への手紙3章。遅くなったとあわてて読んでも、朝一番の御言葉は朝日にを受けた流れのようにキラキラ輝いている。さっと通読し「・・・かの日にそれは明らかにされるのです。なぜなら、かの日が火と共に現れ、その火はおのおのの仕事がどんなものであるかを吟味するからです」という御言葉が特に心に残ったので、その御言葉を書き「再臨の日には、すべてが明らかにされるのですね」と書き添えた。Tさんからのメールは「イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません」という御言葉に「キリスト様に結ばれていないと崩れてしまいますね」と添えられており、その後「こちらは昨日の午後から雪が降りだし、今朝も20センチくらい降っています」とあった。

御言葉によってつながっている友。なんと有難いことかと思う。それこそ私たちのつながりの土台は御言葉であり、Tさんだけではない、集会で共に学ぶ人たちともみな、御言葉によってつながっているのだ。私たちが日々御言葉を求めて歩む限り、このつながりはどこまでも続くだろう。

聖書を読む人と読まない人の間には、深い淵があるようにさえ思えてくる。聖書にはありとあらゆる真理が秘められており、読み続けているともつれた糸が解けてくるように、少しずつわかってくる。

先週の主日礼拝で「現実から神を見る」のではなく「神の言葉から現実を見る」ということを学んだが、本当にこの世の現実だけを見ていると、人生いろいろあっても、このような日がいつまでも続くように思うし、神の裁きも神の愛もあるようでないようで、ただ自分もいつか死ぬのだから、後の人に迷惑かけないように片付けだけはしておこう・・・というくらいのことかも知れない。

ところが、聖書には「神は愛だ」と書いてある。人間は、死んだ後「裁きを受けることが定まっている」と書いてある。キリストに従うなら「暗闇の中を歩かず、命の光を持つ」と書いてある。「わたしを信じる者は、死んでも生きる」と書いてある。世の終わりの日には「人の子（イエス様）が大いなる力と栄光を帯びて、天の雲に乗って来るのを見る」と書いてある。聖書の言葉を素直な心で信じる時、今を生きることがとても大切なことだとわかってくる。生きる力が与えられる。

この新しい年も、ひとりでも多くの人と共に聖書を読み、御言葉によってつながりたい。